

花まつり



写真：誕生仏（国宝 奈良 東大寺 銅像 誕生釈迦仏立像）

【お釈迦さまのお誕生日 花まつり（灌仏会）】

釈尊は今から約2500年前、ヒマラヤの麓ルンビニーの花園で釈迦族の王子として誕生されました。世界は歓喜に満ち、天からは甘露の雨が降り注いだと伝えられます。

花まつりはお釈迦さまのご生誕をお祝いする行事です。その名の通り色とりどりの花で飾った花御堂にご誕生の姿を模した仏像（誕生仏）を安置します。甘露の雨の伝説にちなんで、参拝者は誕生仏の頭から甘茶を注いでお祝いします。花まつりは正式には灌仏会（かんぶつえ）といいますが、これは甘茶を灌（そそ）ぐことに由来します。

釈尊はお生まれになってすぐに七歩歩いて天と地を指さし、「天上天下唯我独尊（天にも地にもわれひとり尊し）三界皆苦吾当安此（われはこの世の苦しみを取り除き、すべての衆生を救う）」とおっしゃったとも伝えられます。

七歩の歩みは「地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上」という六道（仏教で説かれる六つの苦しみの世界）を超越したことと、釈尊が迷いを転じて悟りを得た覚者であるということを表しています。

「天上天下唯我独尊」は最も有名な仏教の言葉の一つですが、これは自身の偉大さを誇示した言葉ではありません。私たち一人ひとりの存在の唯一性とその尊さを説き、人生の苦しみからの救済を呼びかけたものです。このような伝説が釈尊の誕生と共に語り継がれ

てきたことは、いのちの尊厳を第一とする仏教精神を象徴的に示したものであるからにほかなりません。

※花まつりは4月8日とされますが、本学の花まつりは学校行事の都合上、約1ヶ月遅らせて実施しています。

【花まつりによせて】

年の始めには想像だにしなかった未曾有の事態です。花まつりも中止になりました。せめて当日配付予定だったこのメッセージカードを、新入生には甘茶を添えてお届けしたいと思います。

このような世情の中、私の慰みの一つはラジオを聴くことです。NHKラジオで「あなたの子守唄」特集を耳にする機会がありました。「あなたにとっての子守唄をリクエストしてください」というもので、ブラームスの子守唄や日本の童謡等といったまさに子守唄らしい曲が次々と放送されます。その中でひとりの母親が宇多田ヒカルの「あなた」をリクエストなさりました。曲も歌詞も知らなかったので「JPOPの宇多田ヒカルが子守唄なの？」と驚きました。

聴き終えて納得しました。この女性は夜中も泣き止まない赤ん坊をあやし疲れていたときに、この曲と出会い救われたのだそうです。子育ての不安の中で忘れかけていた、新しく生まれてきたいのちの尊さや愛おしさを思い出したのでしょう。まさに字のごとく「子を

守る唄」との出逢いです。歌われている「あなた」が母親にとっては「我が子」に思えたのでしょう。

すぐれた作品は一時的な解釈にとどまることがないといわれますが、この歌も同じだと思います。ところどころに出てくる仏教語が印象的で、釈尊が誕生と同時に人々の苦悩を思いやって高らかに宣言された言葉が思い出されます。

私は世界で唯一の存在である。同じようにあなた方一人ひとりも世界で唯一の存在である。それぞれに掛け替えの無いいのちなのです。「あなた以外帰る場所は 天上天下 どこにもない」の通り、私たちは互いを尊重し合い、共に自分の人生に責任も持たなくてはなりません。

新型コロナウイルス感染防止のために全国的な活動自粛要請がなされています。鬱積するストレスや悩みを慮った動きも盛んになっている一方、要請に対するそれぞれの温度差が差別や偏見を生もうとしているようにも感じます。弱みに付け込んだ詐欺も横行しているようです。私たちは小さく、弱い。だからこそ目に見えない部分でも確かにつながり合うことが大切です。医学的な解決手段だけではなく、私たちにとって本当の平安とは何かが問われていると思います。花まつりは中止になりましたが、釈尊の言葉は永遠です。ご誕生と共にいのちの尊厳をうたわれた釈尊の言葉に耳を傾けるべきときだと思います。

(記 宗教教育センター 武邑尚信)